

今年の「音齋処」

「音齋処」

横田 文孝

巷では「平成最後の」と枕詞を付されることの多い今年の正月は、四日間ずっとテレビを見て過ごした。それも朝九時から夜九時までほぼ半日：寝る時間を考慮すれば丸一日と云っても良い時間をテレビに費やしていた。一体何を見ていたかと云えば「あまちゃん」である。

ひかりTVのファミリー劇場で、156話一挙放送を正月の四日間に亘って行っていた「あまちゃん」は、2013年上半期に放送されたNHKの連続テレビ小説である。云ってみれば「半分、青い。」の先輩に当たる番組で、どちらも地方と東京をヒロインが行ったり来たりしながら夢を叶える物語：：：と云ってしまえば身も蓋もないが、共通点の多いドラマであり、2011・3・11を扱っている点でも共通している（というか「あま

ちゃん」は2011/3/11の為に作られたと云っても良い)。

何故、今更、四日間も「あまちゃん」かなのだが、「音齋処」の原点を思い出す意味があつたからだ：：と思う。

共通点の多い(と勝手に思う)この二作品を見比べてみて、私の結論は「一番の違いは夢を叶える場所の違い」なのである。

片や「地方」で、片や「東京」で：：。

今思えば「音齋処」をやろうと思った切っ

掛けは「あまちゃん」にあつたと云える。

『わざわざこんな処まで来て、目の前で、東京のテレビやラジオがやっている事を見てもらおう、聴いてもらおう』『わざわざこんな地方にまでレコードを聴きに来てくれる』そんなことを「音齋処」でやってみたい、そんな場所にしたいと云うのが「音齋処」の原点だったわけだ。

トイレもなく、今後も期待できない、P・バラカン氏曰く『掘っ立て小屋』の様な処に、

わざわざ何時間も掛けてレコードを聴きに来てくれる：：出前〆をして来て貰える：：毎月来て貰える：：今月は行けない、と申し訳なさそうに連絡が貰える：：そんな事々の有り難さを、この四日間の「あまちゃん」が思い出させてくれたのである。

そんな訳で、今年も、トイレもなく、寒く、冷暖房設備も食事を提供できる環境も、ゆつたりできる椅子も無い、この場所で：：良い音だけが取り柄のこの場所で、それを承知で、レコード音楽を、わざわざ聴きに来て下さる方々にだけ「音齋処」を楽しんでいただこうと思います。

今年一年宜しくお願いします。